

サンゴ保全と経済効用の研究 – 特に和歌山県と沖縄県を比較して –

研究の概要

私は会計学研究の傍ら、地元貢献として和歌山県の観光資源、世界最北端のサンゴ群生である串本のサンゴ群生と経済効用の研究を続けてまいりました。実際に、串本海中公園や観光協会に調査に行き、アンケートを依頼して報告書にまとめました。それは同じサンゴ群生(沖縄の場合はサンゴ礁)を観光資源とする沖縄県と比較調査も行いました。

また、地価を指標として、その上昇と観光収入についても考察しました。残念ながら、和歌山県は他の要因(台風、津波、地震等)によって下落した場合もありました。これらは、日本サンゴ礁学会や国際サンゴ礁シンポジウム(タイ、オーストラリア等)で報告し、数少ない社会科学方面からのアプローチとして注目されています。

研究の特徴

先にも述べましたがサンゴ礁学の中で、数少ない社会科学的アプローチとして学会でも注目されています。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

NIAC(沖縄電力など、沖縄経済界を母体とする)に研究協力を得ました。串本観光協会や全国的なダイビング団体の沖縄支部の協力も得ました。

研究者からのメッセージ

和歌山の地元貢献のために、そして全世界的なサンゴ保全のために、お役に立てることができればうれしく思います。

研究分野 : サンゴ礁学、社会科学、経済学

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学経済学部 経済学科・教授・齊藤久美子

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp